大阪府埋蔵文化財調査報告2005－5

大　堀　遺　跡

―府道郡戸大堀線拡幅事業に伴う発掘調査―

2006年3月

大阪府教育委員会

大　堀　遺　跡

—府道郡戸大堀線拡幅事業に伴う発掘調査—

２００６年３月

大阪府教育委員会

はじめに

大堀遺跡は松原市大堀町にある古墳時代から中世にいたる複合遺跡です。これまでの調査では6世紀後半から末にかけての竪穴住居や溝、奈良時代から平安時代にかけての溝、建物の柱穴、鎌倉時代や室町時代の溝、井戸、畦などが検出されています。

大阪府教育委員会では、府道郡戸大堀線拡幅事業に先立って、平成17年度に発掘調査を実施しました。その結果、大堀遺跡北東部の東除川左岸段丘縁辺の状況を掴むデータを得ることができました。それは河内平野の開発の歴史を考える資料として位置づけられるものです。

最後に、発掘調査の実施にご協力いただきました地元の皆様並びに関係機関に深く感謝いたしますとともに、今後とも本府文化財保護行政へのご理解とご協力を賜りますよう御願い申し上げます。

平成18年3月

大阪府教育委員会
文化財保護課長　丹上務

例　言

1．本書は、府道郡戸大堀線拡幅事業に伴う、松原市大堀遺跡（05026）の発掘調査報告書である。
2．調査と遺物整理は、大阪府土木部の依頼を受けて大阪府教育委員会が実施した。
3．調査は、文化財保護課調査第二グループ主任技師枡本哲を担当者として、平成17年7月21日より同月25日まで行なった。遺物整理は、調査管理グループ技師林日佐子、藤田道子を担当者として、平成18年3月まで行った。
4．本書に使用した国土座標は世界標準座標である。方位は座標北、標高はT.P.で示している。
5．基準点測量は、株式会社南紀航測センターに委託して実施した。
6．遺物の写真撮影は、（有）阿南写真工房に委託して実施した。
7．発掘調査および遺物整理・調査報告書の作成に要した経費は、大阪府土木部が負担した。
8．本書は、枡本が編集し、執筆した。
10．本報告書は、300部作成し、一部あたりの単価は302円である。

大堀遺跡発掘調査報告

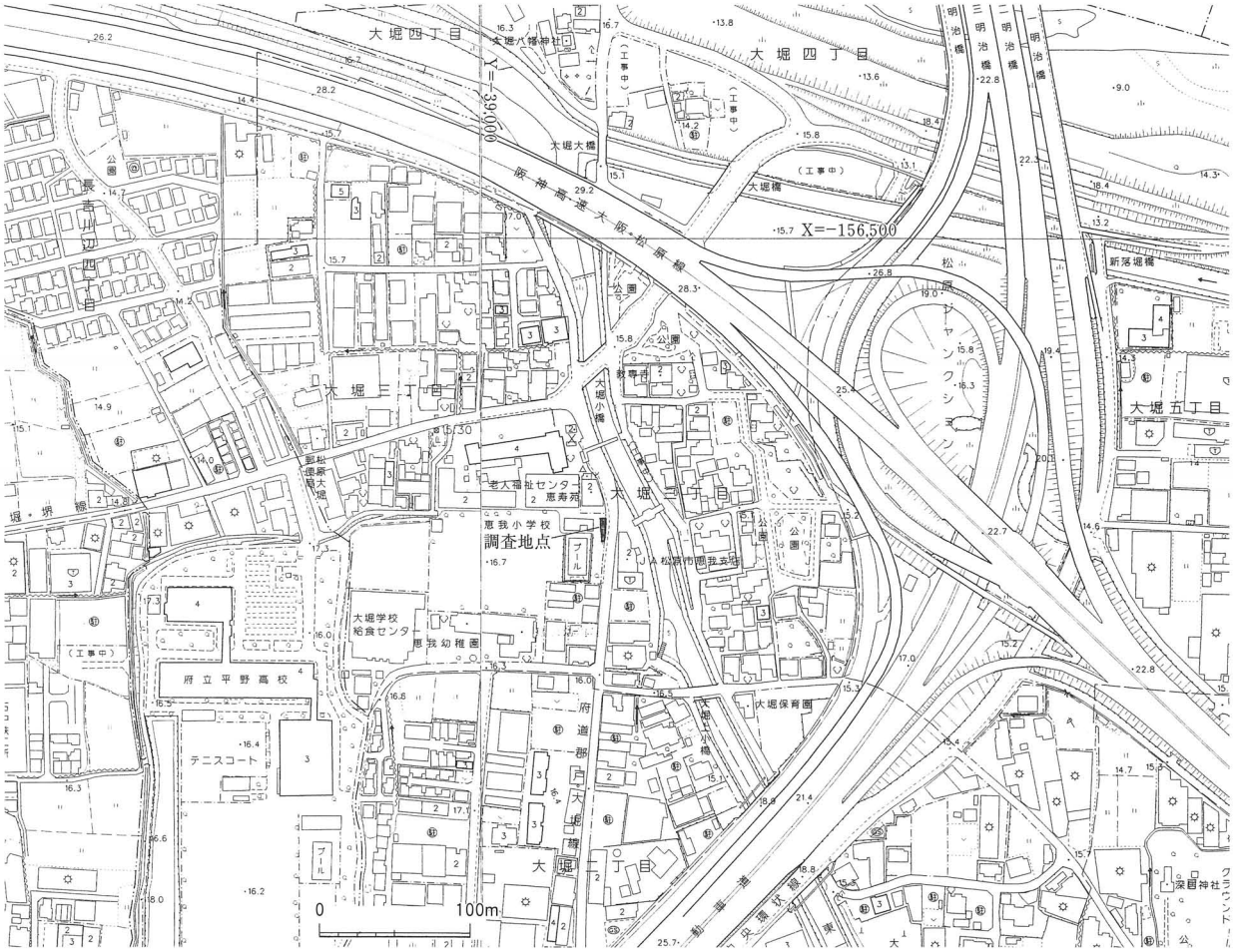
府道郡戸大堀線拡幅事業に伴う大堀遺跡の発掘調査地点（第１図）は、松原市大堀三丁目、恵我小学校敷地内のプールの東隣に接し、一般府道郡戸大堀線西沿いにあって、この府道の東を南東から北西に流れる東除川が北250mで大和川に注ぐところである。発掘調査は平成16年８月27日の本府教育委員会の試掘調査の結果に基づき実施した。

調査区の現状は雑草の茂る空き地であった。調査区の地盤高はT.P.15.8m、形状は南辺1.0m、北辺4.0m、延長16.5mの三角形で、中央に埋設管がありこれを避けたため、面積は32.5㎡となった。

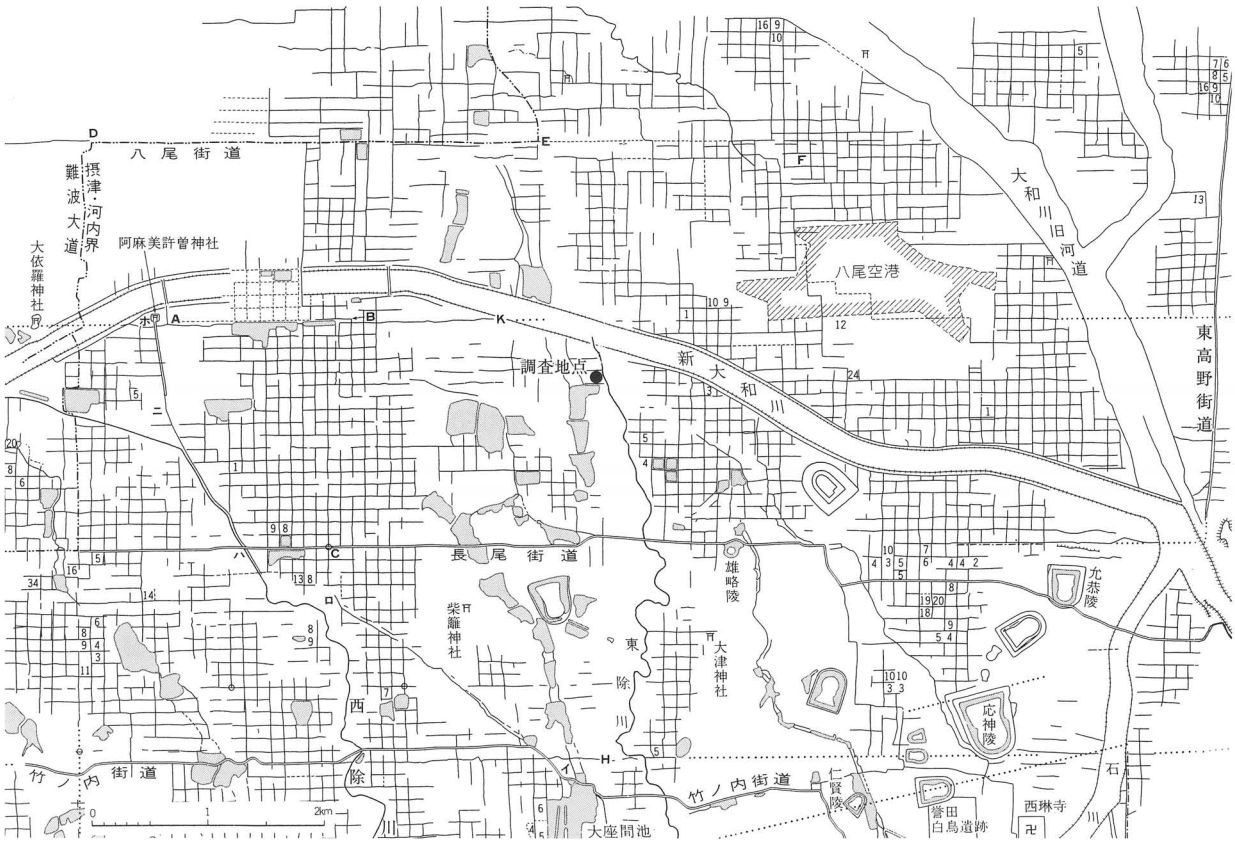
現地盤はかつて現道路面に嵩上げした際の盛土（約60cm）で、これにはコンクリート塊、ビニール袋、瓦、空き缶などが多量に含まれている。その下には厚さ20～25cmの耕土、５～10cmの床土がある。さらにその下に旧来の耕土と思われる厚さ10～20cmの淡灰黄色粘質土が堆積する。これを外すと遺物包含層である暗褐色粘質土が存在する。調査区北端では３cm、中央から南にかけては15cm程度の層厚となる。その下は淡黄色粘土となり、これが地山であって、その標高はT.P.14.8～14.9mと一定している（第３図）。

各層の上面にて遺構検出を行ったが、いずれの面でも遺構らしきものは確認されなかった。遺物包含層からは土師器甕口縁部（図版２、１）、同甕把手（４）、同羽釜鍔（８）、須恵器壷体部（２）、同直口壷口縁部（３）、その他の土師器片（５～７）が出土したが、かなり摩滅した破片である。

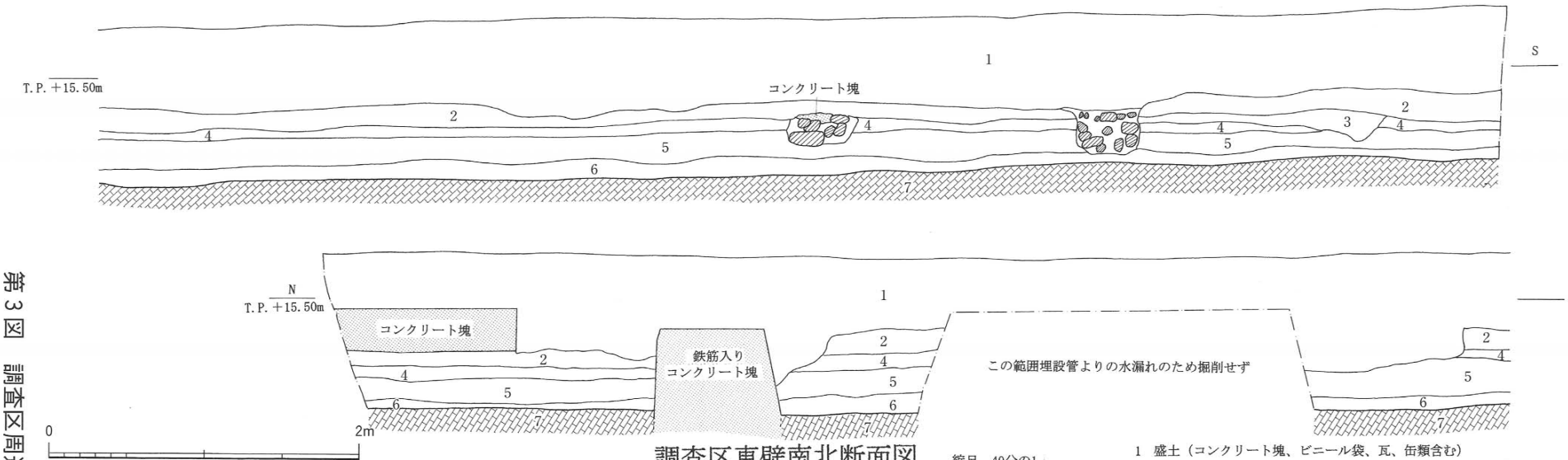
調査地点は大堀遺跡の北東隅にあたり、東除川によって東を画された中位段丘縁辺に接近する一方、西側は段丘を刻む南北方向の旧河道跡に限られ、高度成長期までは河道を利用した池が鎖状に連なり耕地を潤していたようである。このような位置は東西約２kmの南北方向に発達した中位段丘全体からみれば、西約２kmで西除川の氾濫源とその沖積地とも相まって必ずしも安定した立地条件を提供しているとはいえない。長尾街道以北に発達する条里遺構の復原案（『松原市史』第１巻　本文編１、第２章「条里制」（143～178頁）、昭和60年）（第２図）でも調査区付近は東除川の氾濫源に接し、地割りが明瞭に辿れず、どちらかといえば定住には不適な環境であったようである。このような土地の積極的な開発としてはまず耕地の拡大に伴う土地利用を考えるのが妥当であろう。出土した土器片では明確な時期を推測できないが、一見した感じでは奈良時代頃を考慮できる。しかし上記の堆積土や遺物包含層の状況からみて、また土器自体の摩滅した感触からしても、これらの遺物が調査地点における当該期の定住の痕跡そのものを投影しているとは言い難く、むしろ耕地の拡大過程でその客土に紛れて混入した可能性が高いように思われる。



第１図　調査区位置図　（1/5000）

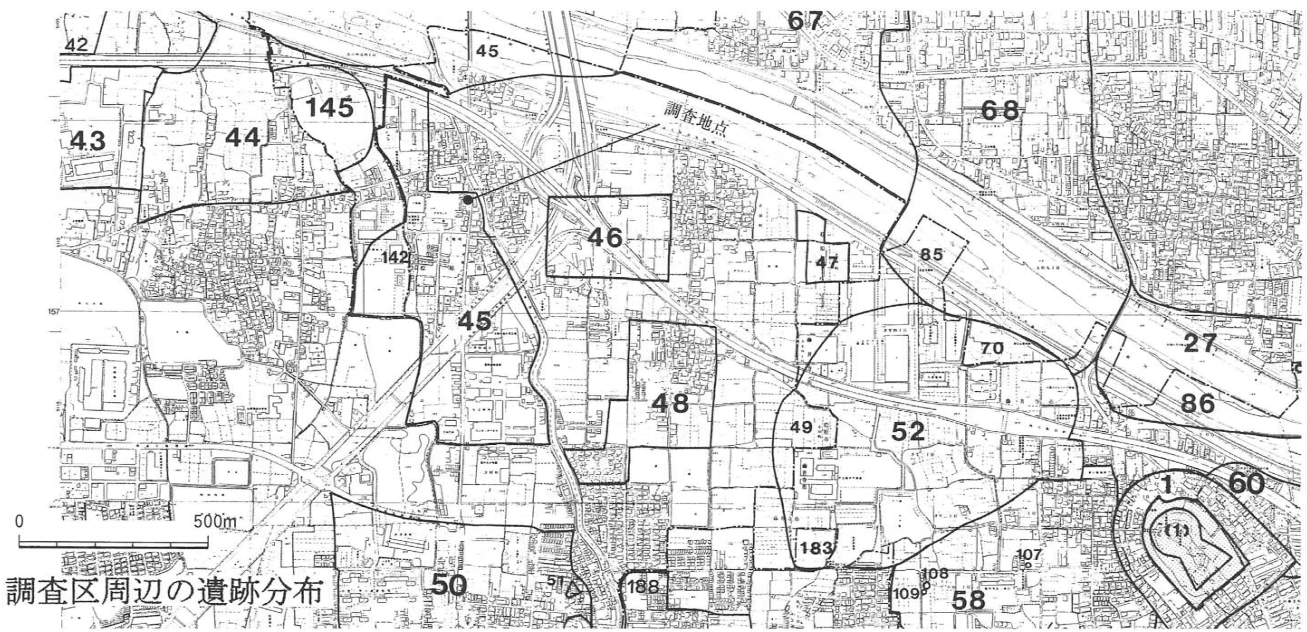


第２図　条理遺構図



調査区東壁南北断面図　縮尺　40分の1

1　盛土（コンクリート塊、ビニール袋、瓦、缶類含む）
2　灰黒色土（耕土）
3　淡灰色粘質土（旧耕土）
4　淡橙色砂質土（床土）
5　淡灰黄色土
6　暗褐色粘質土（包含層）
7　淡黄色粘土（地山）



調査区周辺の遺跡分布

調査区周辺の遺跡分布

	松原市		藤井寺市
42	三宅東遺跡	1	津堂城山古墳
43	藏重遺跡	52	津堂遺跡
44	別所遺跡	58	小山遺跡
45	大堀遺跡	60	小山平塚遺跡
46	屋後遺跡	85	太田遺跡
47	若林遺跡	86	大正橋遺跡
48	小川遺跡	107	横江山（小山1号墳）
49	津堂遺跡	108	西代1号墳
50	一津屋町遺跡	109	西代2号墳
51	川ノ上古墳跡		
			大阪市
	八尾市	142	大堀遺跡
27	大正橋遺跡	145	別所遺跡
67	八尾南遺跡		
68	太田遺跡		羽曳野市
70	津堂遺跡	183	津堂遺跡
		188	島泉北遺跡

第３図　調査区周辺の遺跡と調査区土層図

報　告　書　抄　録

ふりがな	おおぼりいせき
書名	大堀遺跡
副書名	府道郡戸大堀線拡幅事業に伴う発掘調査
巻次	
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2005－5
編著者名	枡本哲
編集機関	大阪府教育委員会
所在地	〒540-8571　大阪府大阪市中央区大手前2丁目　TEL　06-6941-0351
発行年月日	2006年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	面積 (㎡)	調査原因
おおぼりいせき 大堀遺跡	まつばらし 松原市 おおぼりちょう 大堀町			34° 35′ 24″	135° 34′ 22″	2005年 7月21日～ 2005年 7月25日	34㎡	府道郡戸 大堀線 拡幅事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大堀遺跡	集落	奈良時代 ～中世	なし	土師器・須恵器	なし

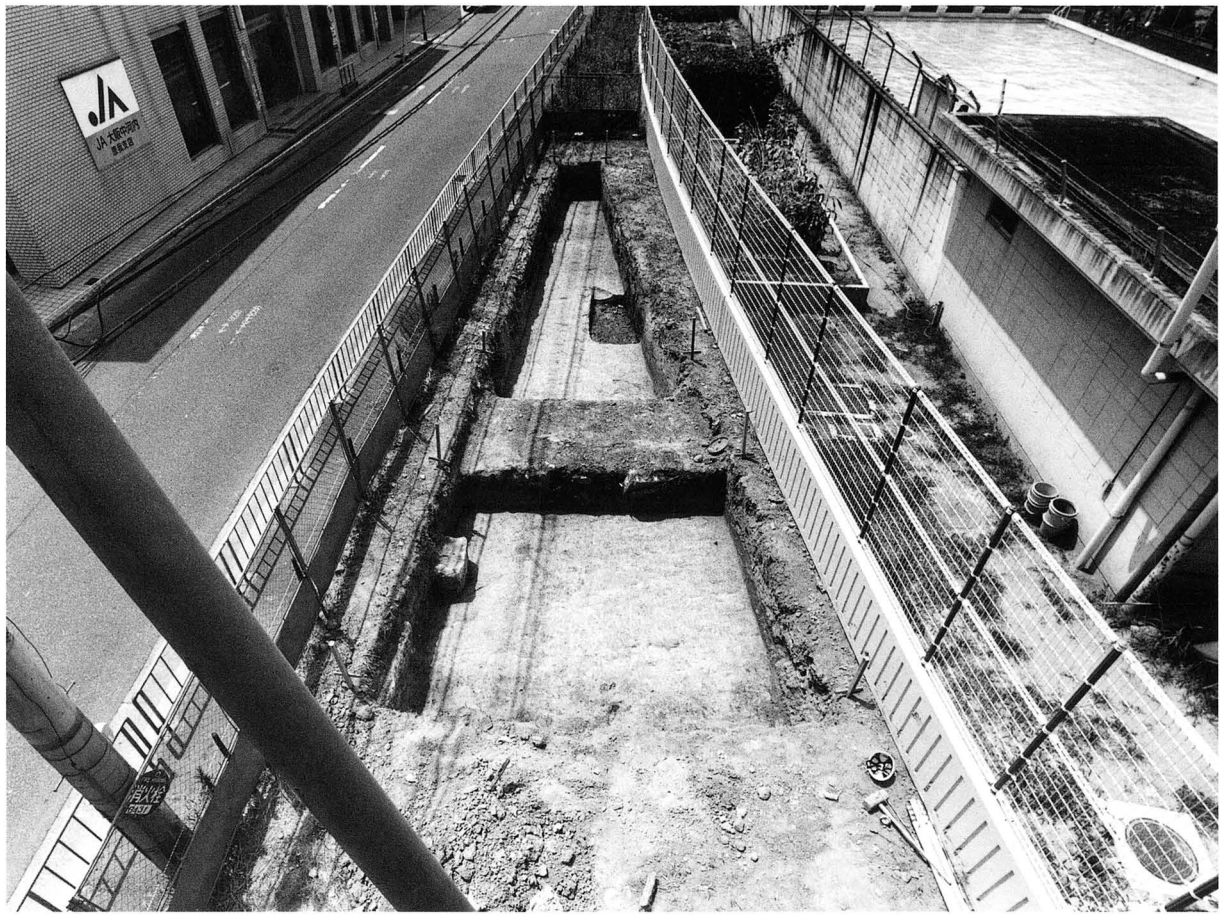
大　堀　遺　跡

―府道郡戸大堀線拡幅事業に伴う発掘調査―

発　行　　大阪府教育委員会
〒540-8571
大阪市中央区大手前2丁目
TEL．06-6941-0351

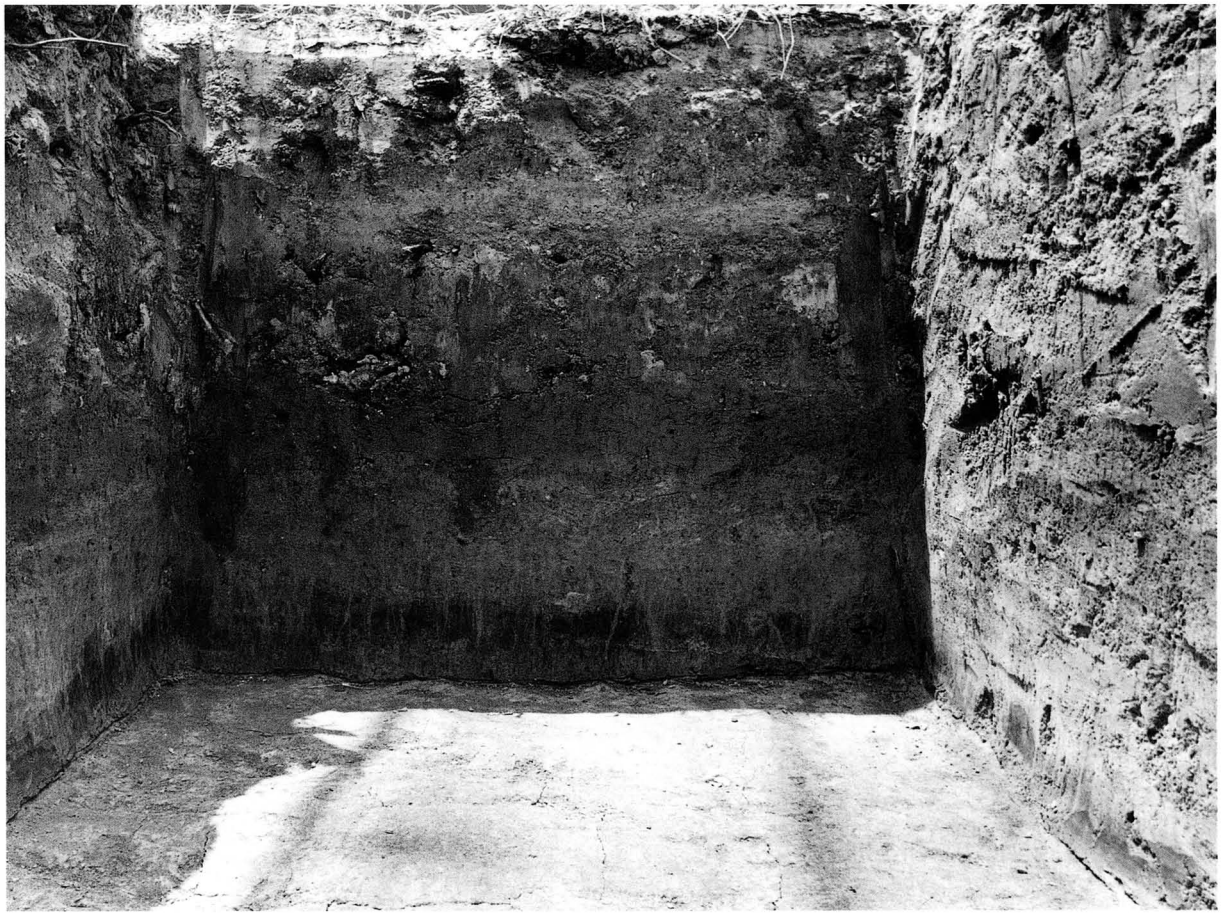
発行日　　2006年3月31日

印　刷　　株式会社　中島弘文堂印刷所
大阪市東成区深江南2－6－8
TEL．06-6976-8761

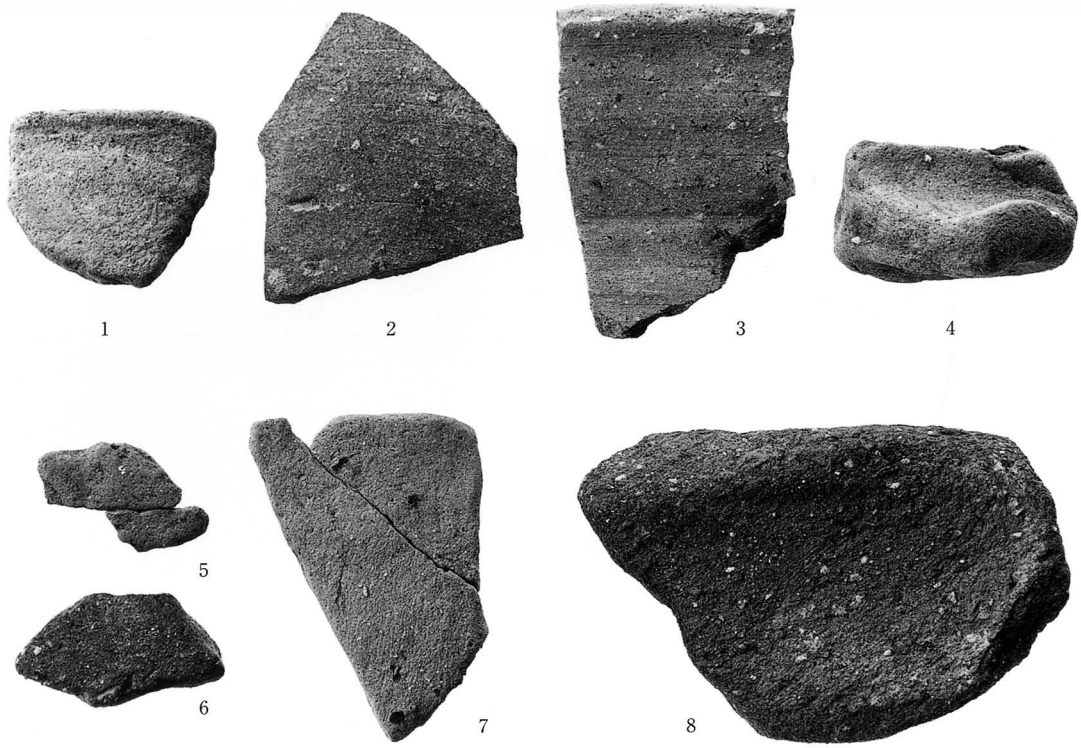


調査区全景（北から）

東壁断面（西北から）



調査区南壁断面（北から）



包含層出土遺物